

仙台城跡の本質的価値について③

～整備基本計画の策定に向けて～

仙台城跡における本質的価値の概要

仙台城跡は、戦災等により多くの歴史的建造物が失われましたが、城郭全体の基本的形状や石垣等の遺構は良好に残されています。また、発掘調査によって確認された特色ある遺構や遺物に加え、都市近郊に残る貴重な自然林の存在、時代の変化を反映した城郭構造などに特筆すべき価値を見出すことができます。

仙台城跡における本質的価値は、今後の調査研究によって内容の更新や追加がなされるものですが、現時点では以下の5つにまとめることができます。

仙台城跡の本質的価値

- 1 良好に残る城郭全体の基本的形状と各遺構
- 2 本丸北壁石垣の変遷と城内の石垣にみる変化
- 3 政宗らしさをうかがわせる特色ある遺構と遺物
- 4 自然環境との高い一体性
- 5 時代を反映した城郭構造と歴史的眺望

1 良好に残る城郭全体の基本的形状と各遺構

仙台城跡は、明治維新後の火災や城郭の破却、第二次大戦時の戦災による焼失等のため、藩政期の歴史的建築物がほぼ失われている現状にあります。しかしながら、本丸、二の丸、三の丸（東丸）といった主要な曲輪や登城路など城郭の基本的形状は全体として良好に保たれており、石垣、土塁、堀跡、門跡などの遺構が随所によく残されています。

また、城内には多くの未調査箇所があり、今後の調査によって発見される遺構や遺物についても史跡の本質的価値を構成する重要な要素となります。



仙台城跡の基本的形状

2 本丸北壁石垣の変遷と城内の石垣にみる変化

本丸北壁石垣の解体修復に伴う発掘調査では、3時期にわたる石垣の変遷や内部構造が確認され、その築城の様子が明らかにされました。ここで確認された石垣の変遷は、城内の随所に残る石垣の構築年代や歴史的意義を検討する上でも重要な成果です。

また、城内に残る石垣の特徴にはいくつかの違いが認められます。これは、構築年代の差を示唆する一方で、主に大手道上での視覚的な見栄えの演出や修復の履歴といった城郭の歴史そのものを反映していると考えられることから、仙台城の理解を深める上で高い価値を有しています。



本丸における3時期の石垣

3 政宗らしさをうかがわせる特色ある遺構と遺物

これまでの発掘調査によって、日本有数の大大名であった藩祖政宗の特色がうかがえる建物群やその利用の実態が明らかにされつつあります。

本丸には大広間を中心とする桃山期の特色ある御殿群があり、北壁石垣の調査ではヨーロッパ産ガラス器や金箔瓦等の稀少な遺物が出土しています。一方、政宗の下屋敷があった三の丸（東丸）では、池や茶室の跡と共に高級茶器等が確認されています。

これらの調査成果は、公的空間を含む本丸と私的空間としての下屋敷が担う役割の違いを反映しており、政宗の公私にわたる生活の一旦がうかがえる点で重要です。

また、下屋敷に近い造酒屋敷跡は、職人が城内に屋敷を与えられ酒造りを行った全国的にも極めてまれな存在で、それを裏付ける建物跡や遺物が確認されています。この場所は、酒を愛し数々のエピソードを残した政宗の人となりうかがえる空間として高い価値を有しています。



遺構表示された本丸大広間

4 自然環境との高い一体性

仙台城跡は地形的条件を巧みに利用し防御性を高めており、城内水利の供給源ともなっていた青葉山の自然林、天然の要害としての竜の口溪谷、外堀ともいえる広瀬川など、遺構と連続性をもって価値を形成する豊かな自然環境が、城郭としての特性をより深めています。

また、御裏林と称して藩政期より保護されてきた自然環境は、現在、国の天然記念物青葉山として指定されており、都市近郊においてきわめて貴重な自然が残る場所として高い価値を有しています。



自然地形を生かした仙台城跡

5 時代を反映した城郭構造と歴史的眺望

仙台城跡は、築城期における本丸の山城的性格と後に造営された二の丸の平城的性格が併存する城郭構造に特徴があり、これは徳川政権の確立へ向かう政治情勢の過程を反映している点で重要です。

この二つの性格の違いは、城郭の眺望がもつ役割の変化とも密接な関係があります。築城期には敵の監視という軍事的役割を果たしましたが、その後は、藩主による家臣・城下への示威や監視といった社会的・政治的役割が主体となります。そして、眺望は主に本丸と二の丸により構成される近世城郭としての景観とともに権威の象徴となっていきます。

このように仙台城跡における眺望は、城郭がもつ歴史的背景と城郭全体の景観とが一体となった「歴史的眺望」として高い価値を有しています。



大橋付近からみた明治初期の仙台城跡
仙台市博物館所蔵